

「県央地域で巡る体験型観光と担い手育成の取り組みについて」

新潟経営大学経営情報学部
特任教授 近藤 政幸

1. 趣旨

アフターコロナのツーリズム形態が、安全安心、本物指向、自然指向から旅の近隣化、滞在化、個人化、分散化に変容している。そしてインバウンド市場再始動による地方の日本をめざす段階に入った。このことは大都市に比して人口減少速度が早い地方都市にあって、地域資源を市民が観光資源化することで新たな観光アトラクションと交流人口獲得に資することにつながる。

令和5年度加茂市商工観光課の事業提案を受けて、新潟経営大経営学実地研究「観光まちづくり」研究生が加茂市、三条市の伝統産業機関、歴史的文化的機関、野外レジャー機関に視察、観光モニター体験、聞き取り調査等を実施して“体験と交流型プログラム”として地域と協働した企画書をまとめた。

2. 事業概要

- 1) 加茂市中心市街地の来訪客アンケート調査、七谷地域来訪者へのアンケート調査による体験と交流型プログラムの希望項目の具体化、実現に必要な準備、視点の獲得。
- 2) 体験プログラムを構成する市民担い手との交流、地域資源調査を経て、観光アトラクション、顧客価値、市民価値を自ら理解し、流通可能な様式（タリフ）に明文化し事業化可能なものに仕上げることを目標とした。このことにより、訪問・滞在価値、体験と交流価値を明らかにした。
- 3) 主要な体験と交流プログラムについての学生によるモニター体験と体験価値の取材を行い、担い手、説明内容、説明手順、受け入れ先の環境設定、安全対策、予約手順等を受け入れ機関ごとに評価し、対象見込顧客に流通、提供可能なプログラムとして企画し記録化した。
- 4) 体験と交流プログラムを通じて、地域社会、自然環境、地域経済への効果を前提に、地域内の関係者と地域資源の発掘、編集、商材化、商品化のプラットフォームの形成を試みた。

3. 研究成果

- 1) 加茂市・三条市体験と交流プログラム 10 点の開発、観光流通仕様書（タリフ）完成
- 2) 体験プログラム提供者と大学生との交流、意見交換、プログラム実現と協力の合意形成

3) 地方都市における観光交流人口・関係人口獲得プラットフォームモデルの開発

4. 今後必要とされる展開

- ・地域資源の種類、分類、顧客目的別の体験プログラム編集方法の手引書
- ・観光交流人口獲得プラットフォームの運営制度と手引書（観光地域経営、観光まちづくり組織、運営方法、自主財源獲得方法等の中核人材開発）
- ・リスクマネジメント 体験と交流プログラム毎のリスクマネジメント計画の作成

経営学実地研究（観光まちづくり）

『県央地域で巡る体験型観光と担い手育成の取組み』

—商店街と七谷の観光まちづくり課題を受けて—

発表者： 俵 卓磨
鈴木 裕翔
矢部 美空
小林 優月

後期研究：体験と交流型観光のマネジメント

目次

1. 研究課題：「住んで良し」と「訪れて良し」は一致しているわけではない
2. 研究目的：住民意識と来訪者需要をつなぐ観光まちづくりの仕組みを明確化
3. 研究方法：地域が主役となり、観光資源を訪問価値に変える。
住む誇りと来訪者経験価値を経済価値に！
4. 考察とまとめ：持続可能と稼げる観光プラットフォーム

1. 研究課題:「住んで良し」と「訪れて良し」一致する体験プログラム

5都市の観光交流人口獲得に際しての住民意識 ※2022年の観光学会研究(近藤政幸)

1位. 野外レジャー(53%)、2位. 地域文化体験(25%)、3位. 農業・エコ体験(12%) 4位インフラ(11%)

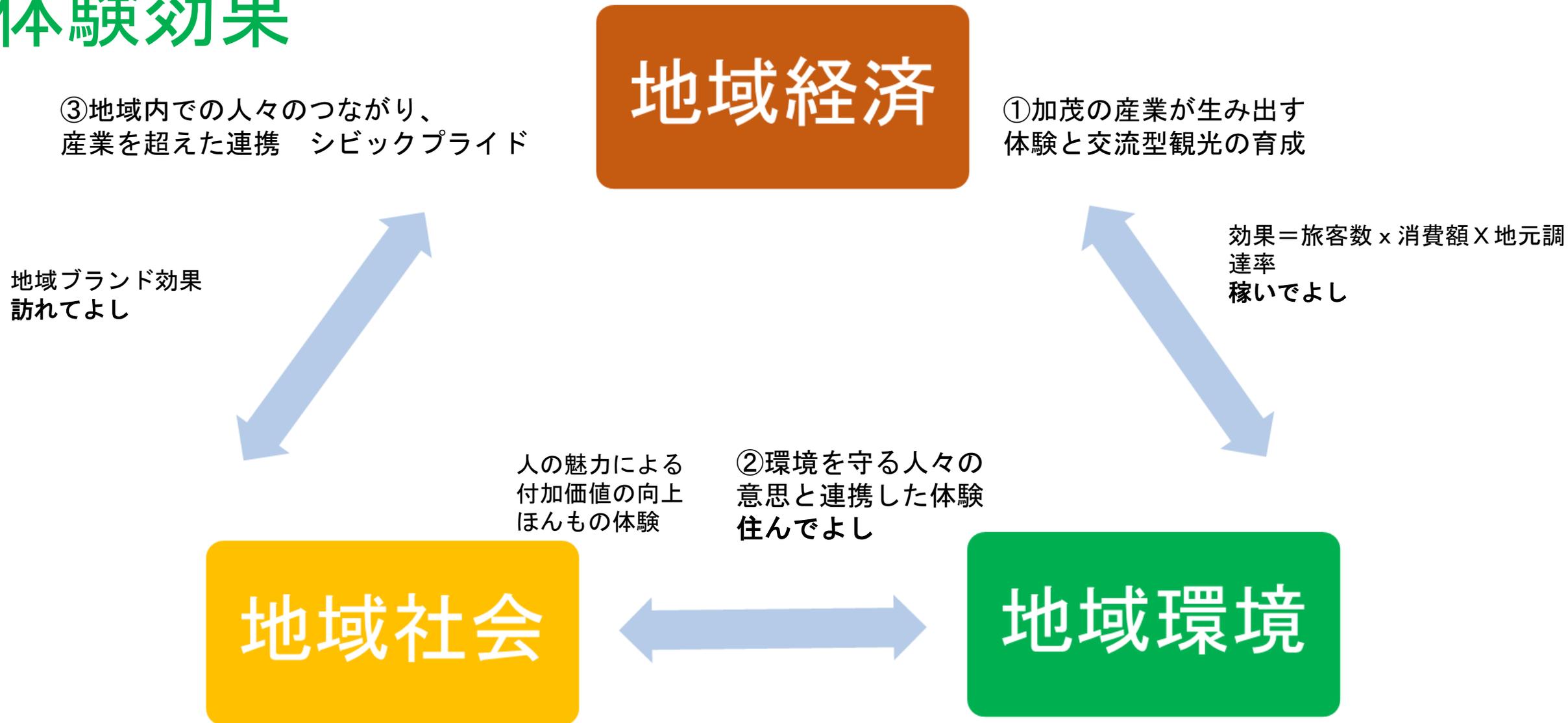
加茂商店街、加茂山 (複数回答)

- 1位. 加茂の味覚体験 (41%) 233件
加茂郷土食とカフェ文化 (歴史と季節食)
- 2位. 体験と交流型観光 (25%) 140件
桐箆笥・着物・加茂紙漉き・組子・名所巡り等
- 3位. イベント (24%) 139件
広域・同時・多発・長期間のイベント
- 4位. その他 (3%) 9件

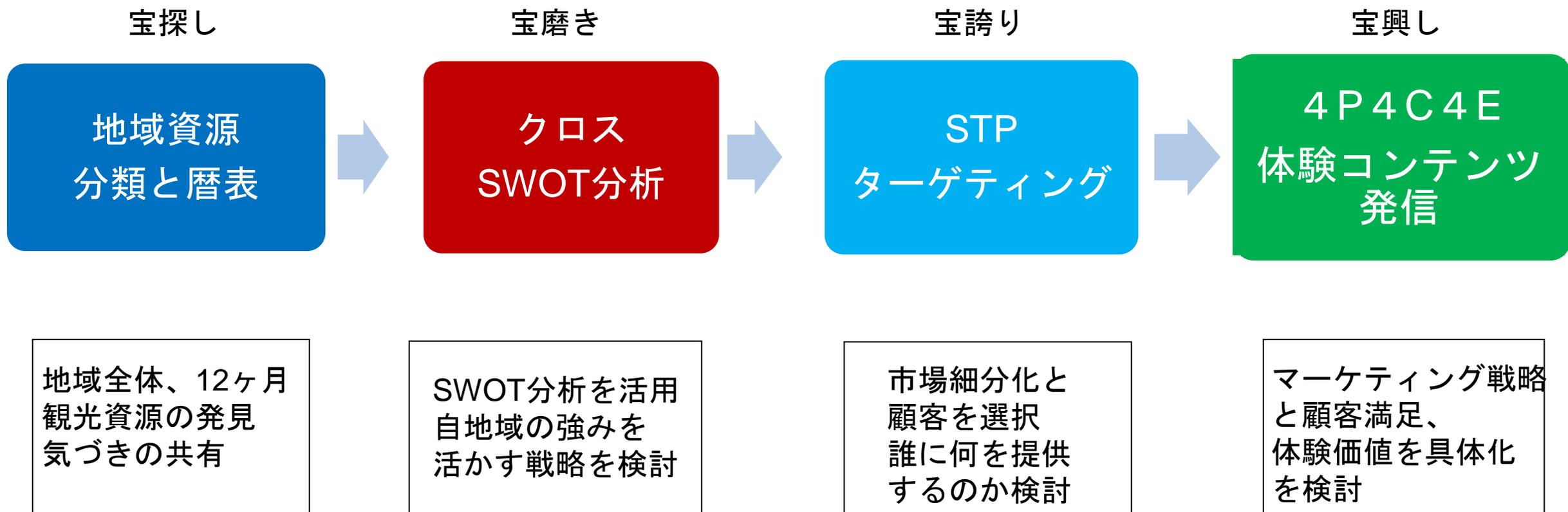
北越の桃源郷、七谷 (美人の湯) (複数回答)

- 1位. 野外レジャー (29%) 179件
ほたる観賞、満天の星、キャンプ等
- 2位. 道の駅と飲食施設 (27%) 169件
道の駅110件、七谷食堂59件
- 3位. 体験と交流型観光 (18%) 116件
里山サイクリング、七谷米田植えと稲刈り
自然薯掘りと料理、粟ヶ岳炭焼き、戦国山城
- 4位. 七谷マップ、案内看板 (14%) 88件
- 5位. 野外アート、その他 (9%) 57件

2.研究目的「まち」の3要素を「結びつける」 体験効果



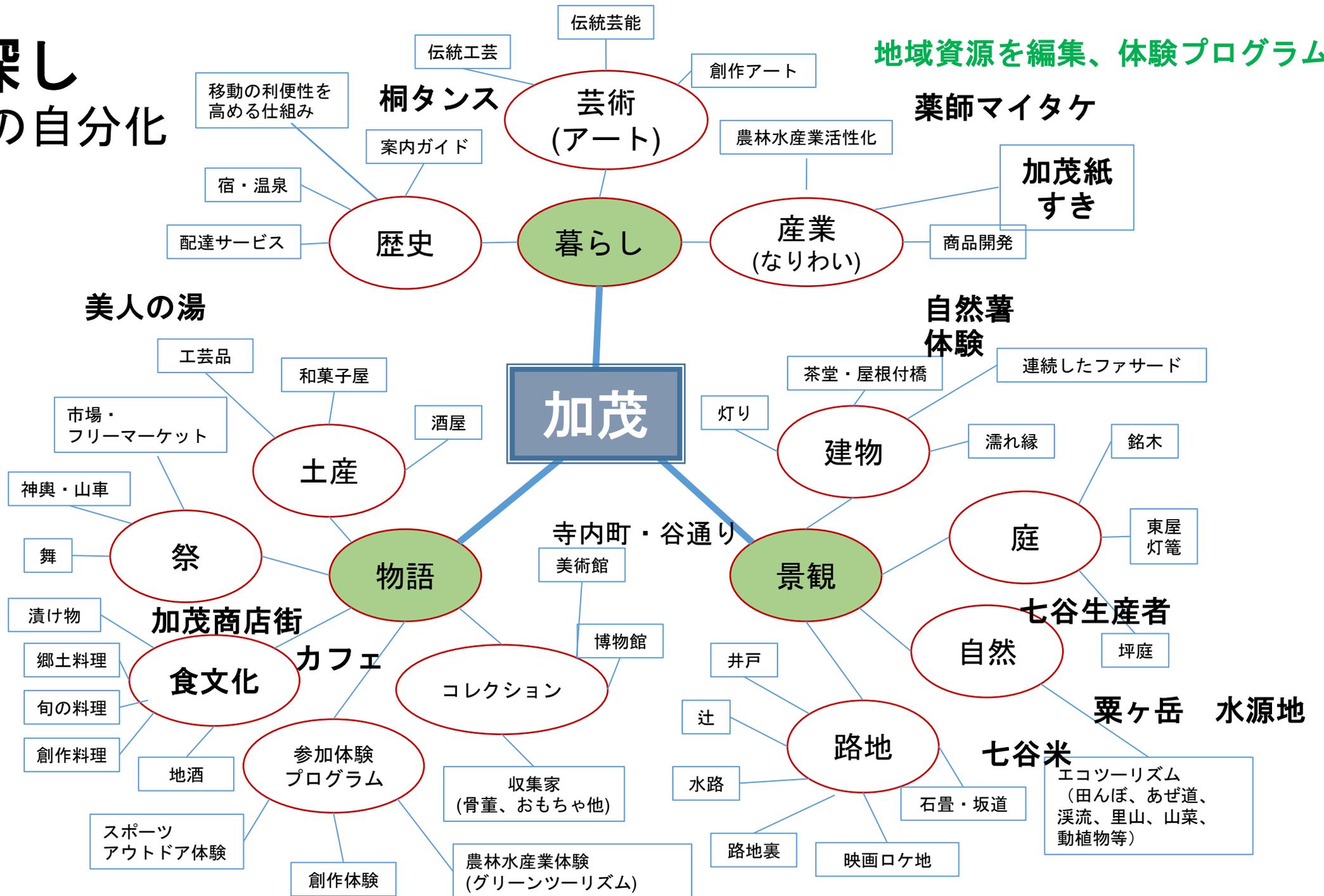
3. 研究方法：地域が主役となり、観光資源を訪問価値に変える。来訪者経験価値を経済価値と住む誇りに！



日本エコツーリズム協会と日本観光研究学会関西支部の観光マーケティングを参照し加筆

①宝探し 自文化の自分化

地域資源を編集、体験プログラム化



②宝磨き

加茂SWOT

加茂まちづくり戦略				加茂の外部要因		
A<<加茂市プロフィールと市場機会環境分析>>				機会 (Opportunities)		脅威(Threats)
人口	25,449	世帯数	9,676	雪国文化	高速交通機関の充実	日本の少子高齢化・人口減少
工業出荷額	675億	事業所数	1,368	和食文化	デジタルインフラ	世界の分断・価値観のちがい
農業生産額	24.5億	農家戸数	969	発酵文化	インバウンド復活	空家拡大、モノと誇りの空洞化
商品販売額	333億	宿泊者数	11,796	アドベンチャー	世界の人口拡大	インフラの維持費
面積	133.7km ²	商店数	388	ツーリズム		気候変動 コロナの再来
従業者数	9,676	入込客数	228,829	アウトドア人口		EV乗り遅れ 多世代ICT教育
高齢化率	37.4%	温浴施設	1			2次交通の消滅
内部要因	強みのリスト	自然が豊か		SO戦略 (積極的攻勢) :maxi-maxi		ST戦略 (差別化戦略) :maxi-mini
		駅前商店街と森 学園都市 加茂川 四季折々の景色 温泉 商店街ごとの祭り多い 伝統文化 快速電車の停車駅		アウトドア戦略 (星空観察・川遊び・アスレチック) (街道・炭焼・山歩き・山城・雪遊び等) 七谷里山文化の散策・サイクリング・農体験 伝統文化を発信するプロジェクト (料理・工芸・産業・道祖神・祭り・酒の陣) 完全無欠の鉄道遺産街道 (廃線・トンネル・橋) 商店街に移住者、訪日客を増やす <i>世界の機会をとらえて加茂の強みを生かす戦略?</i>		市内の交通網の整備 わかりやすく、気軽に 他都市イベントにて加茂情報を発信 野外レジャー 古民家・空家活用の宿泊・飲食施設 個人運営の車で送迎 駐車場マップ <i>世界の脅威を加茂の強みで乗越え戦略?</i>
	弱みのリスト	高齢化		WO戦略 (段階的施策) :mini-maxi		WT戦略 (専守防衛・撤退) :mini-mini
		後継者不足 人手不足 自家用車が不可欠なまち 駐車場の不足 発信力の不足 若者の居場所が限定的 空地がない 電車本数が少ない 変化を好まない		古民家の保全と多様な活用 伝統文化の価値を尊重する人々に発信 2次交通の整備 SNSなどで情報発信、ネット教室の充実 訪日客向けのガイド人材養成 (和食料理教室) 高齢者を活用したガイド養成 カフェ対抗ご当地グルメ開発 <i>加茂の弱みを強みで補強する戦略?</i>		休日の商店街営業 公共交通の利便性拡充のための交通実験 空地、休耕田の利用、農業体験 楽しみ方マップとガイド付き貸自転車 地域イベントを学校・大学と相互乗入 七谷EVカー利用の観光 加茂への移住体験 (期限付き) <i>柔軟個別反応戦略</i>

参考・引用資料 観光 - 新潟県ホームページ <https://www.pref.niigata.lg.jp/life/6/24/>

農家数 <https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/7773.xls>



加茂の課題分類と対応するまちづくり戦略対照表

わたしたち学生は考えた

No	観光まちづくり戦略	地域の課題
1	屋外レジャー事業 キャンプ、街道ウォーク、森林浴 登山、自転車、カヌー等	山林 河川 管理
2	古民家、空家、空施設活用事業、宿泊 料理、飲食、ワークショップ	人口減少 空家、商店
3	体験型交流事業、2地域居住 農のある暮らし、エコツーリズム	休耕 農地
4	2次交通、情報発信事業 自動車旅行、MaaSの充実	2次交通 情報発信
5	自文化と交流事業、イベント 郷土料理、伝統祭事、伝統工芸	住む誇り 自文化継承

学生が考える加茂まちづくり戦略

1. 野外レジャー 2. 古民家&ワーケーション 3. 農業・エコ体験 4. 交通網・情報網 5. 地域文化

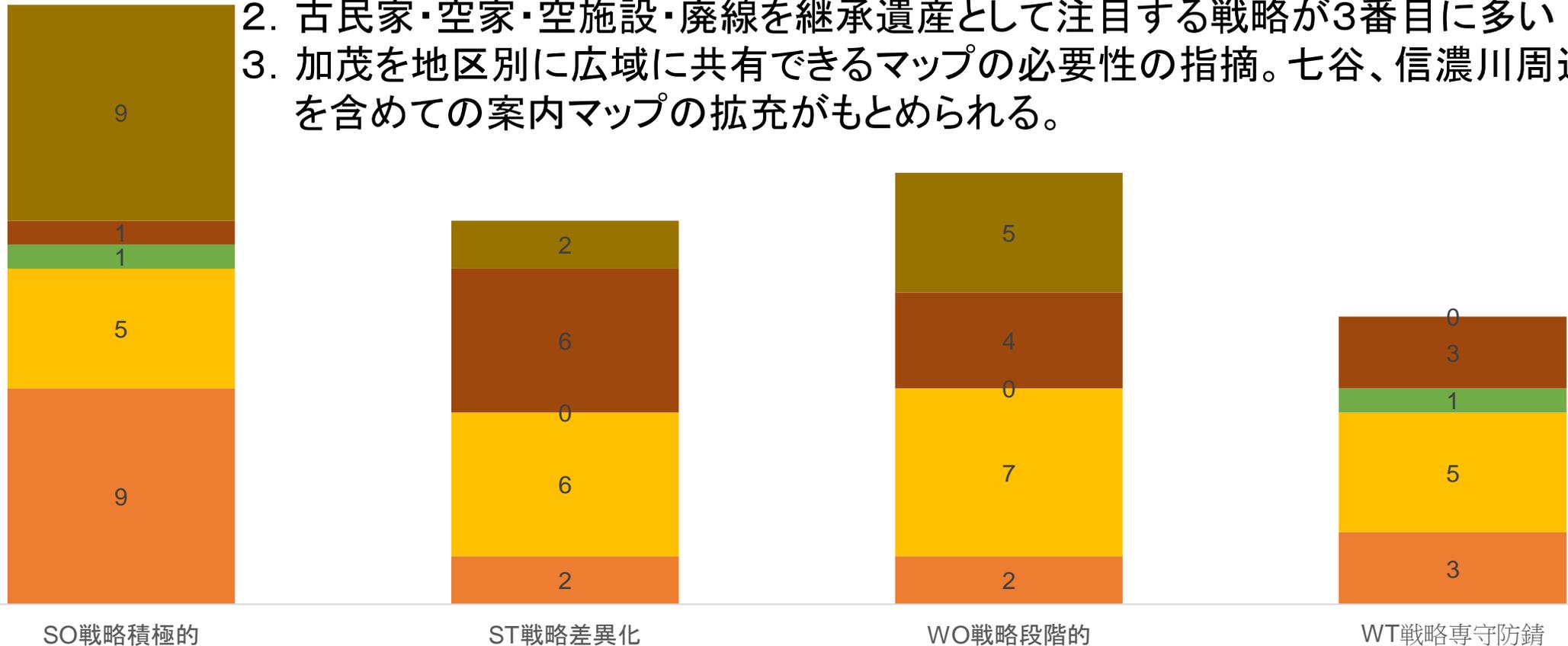
学生戦略	SO戦略 強みX機会					ST戦略 強み x 脅威					WO戦略 弱み x 機会					WT戦略 弱み x 脅威				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
今成愛奈	2				1				2			2			1		1	1		
俵卓磨	2		1		1		1		1	1		2			1	1				
鈴木裕翔	1	2			1		2		1		1			1	1		1			2
鶴巻古々奈	1				2	1			1	1	1	1			1		1			
小林優月	1	2		1	2		1					1				1	1			
本間楓					2				1					2						
矢部美空	1						1					1				1				
山倉彪久	1	1				1	1							1	1		1			1
	9	5	1	1	9	2	6	0	6	2	2	7	0	4	5	3	5	1	3	0

学生が考える加茂観光まちづくり戦略

交流人口獲得5戦略

- 1. 屋外レジャー ■ 2. 古民家&ワーケーション ■ 3. 農業・エコ体験 ■ 4. 交通網・情報網 ■ 5. 地域文化

1. 野外レジャーと地域伝統文化を2大コンテンツとして保全、活用する戦略
2. 古民家・空家・空施設・廃線を継承遺産として注目する戦略が3番目に多い
3. 加茂を地区別に広域に共有できるマップの必要性の指摘。七谷、信濃川周辺を含めての案内マップの拡充がもとめられる。



③宝誇り 交流と体験型ニューツーリズム

個人の趣味に立脚

担い手（まちづくり）

●テーマ型の旅客・訪日客



●加茂が主役の観光体験

エコツーリズム



体験から交流
交流から滞在
滞在から消費

	体験と交流プログラム	交流と体験テーマ	観光資源	観光アトラクション
1	加茂紙漉き	加茂伝統工芸と産業	江戸時代、越後名産品番付表で小結、加茂紙	楮の木の加工見本、加茂紙の独創性、芸術性
2	伝統組子細工	加茂伝統工芸と産業	ヒノキ、スギ、タモ、桐を端材とデザイン力と組みたてる木工技術	伝統工芸の歴史とイノベーション
3	三条鍛冶道場	三条鍛冶体験 産業体験	三条金物の鍛鉄鋼磨の職人魂、気迫	鉄の塊がみるみる内に熱し、たたき、延ばし、ねじる人間の知恵
4	桐たんす	箆笥の原材料、桐の個性を生かした家具	箆笥材料の収集、整理、前工程	100年再生し続けるSDGs 箆笥
5	町屋、ゲストハウス体験	日本人ホンモノ生活文化	歴史的文化的な建築の再生、室内調度品、伝統家具の真正性	100年前の日本人の暮らし文化体験、ご近所社会のコミュニティ
6	七谷里山サイクリング	棚田の稲作と集落コミュニティ交流	粟ヶ岳の扇状地、棚田、網の目状水路、道祖神、伝統家屋、田圃の生き物	米を主食としない人々にとり、米が雪解け水と棚田でできる驚き体験と交流
7	自然薯掘りと自然薯料理	2万年前公園横の棚田のごちそう、自然薯掘り	2万年前遺蹟公園、伝統的集落、棚田の扇状地、高級和食の収穫体験	自然薯の予想外の育成方法と収穫体験、棚田見晴らし台で試食体験
8	粟ヶ岳炭焼き	千年の歴史、粟ヶ岳炭焼き、ホンモノ体験	粟ヶ岳の山守の人々、炭焼き竈の作り方、火の起こし方、炭焼き出入	炭焼きのかきだし、炭焼き人のデモンストレーション、山守りの文化
9	完全無欠の蒲原鉄道遺産群	鉄道遺産の完全無欠跡、ヘリテージツーリズム	トンネル、橋脚、廃線跡、駅舎跡、ガーター、直角に曲がる水路、物語	日本では珍しい、廃線鉄道の工作物が完全フルセット見る、触れる、歩ける
10	青海神社七不思議	加茂山の歴史、不思議発見と驚き	青海神社の渡り廊下、親子亀噴水、空中に浮く鳥居、お粥占い、鐘の緒	青海神社のウグイス張り渡り廊下は楽器であった等、七不思議の背景を知る
		伝統文化体験		野外レジャー

体験プログラム タarif

No

プログラム名	400年の伝統産業 加茂紙漉き体験		地区: 加茂上町商店街
実施場所	加茂紙漉き場	住所	新潟県加茂市上町1-22
担当者	鶴巻	Email	kamogami-sukiba@lilac.plala.or.jp
TEL	0256-52-4184	FAX	0256-52-4184
受入可能期間	4月下旬～10月下旬	プログラム概要	
受入可能時間	平日①10時より、②13時30分より	古くから生産されていた加茂紙は、江戸時代、年貢として納められた歴史をもつ。	
体験時間	1～2時間程度	近年復活を遂げた加茂紙づくりを体験できる。	
最小催行人員	2人		
最大催行人員	6人		
受付期限	体験希望日の5日前まで		
体験料金	お1人当り	プログラム流れ(スケジュール)	
2名～4名	1500	①紙漉きの材料である楮(こうぞ)の皮を煮てつくった紙素をすくう	
5名～6名	1500	②紙の型となる木枠(桁)、簀(す)にすくった紙素を広げる	
		③広げた紙素を板に移す	
		④紙素を乾かす	
料金備考	体験費用 指導員	⑤加茂紙の歴史や特徴等の説明を聞く	
交通	車 三条燕ICから30分	⑥一般的な紙と加茂紙との違いを紙あそびを用いて体感する	
	公共交通 JR加茂駅から徒歩10分		
駐車場	普通車 なし(紙漉き場から徒歩5分 加茂山駐車場利用可)		
	バス 加茂山駐車場利用可	注意事項	
トイレ	無し	◆先生のやり方をよく見る	
売店	無し	服装・準備物・その他	
自販機	無し	袖が長い服は避ける	
食事	無し		
	気温により製作方法が少し変わる 加茂紙の原料は、楮(こうぞ)を使用します。	予約先	加茂紙漉き場
		TEL	0256-52-4184
		FAX	0256-52-4184
		Email	kamogami-sukiba@lilac.plala.or.jp

歴史

加茂紙とは、主に新潟県加茂市七谷地区で製造されていた和紙である。七谷地区の紙漉きは寛永期以前から村松藩が藩へ納める年貢米の一部を紙に変えて納めるために生産されていた。紙を漉くには原材料やきれいな水、燃料が必要であり、豊富な資源がある七谷地区は紙漉きに適している。また、紙漉きは寒い季節でも出来るので、農家の副業ともされていた。

明治の終わり頃には新潟県の和紙生産額の約40%を占めていた加茂紙だったが、平成5年に一旦生産を終了した。その後保存会の働きかけで平成23年に加茂市が中心となって和紙作りを復活させた。その際に技術継承に名乗りを上げた10人のうちの一人である鶴巻さんが加茂紙作りに携わっている。

組織

加茂紙漉き場

加茂市役所

加茂市民俗資料館

経営

加茂紙漉き技術の保存振興事業としておこなわれています。

写真またはMap



チェック ※新潟経営大学研究生による体験からの評価に基づく

	4P	4C	4E	
Product	70	Customer Value	80	Education
Price	90	Cost	90	Entertainment
Place	50	Convenience	80	Escape
Promotion	50	Communication	70	Esthetic
				100
				60
				100
				50

プログラム名	自然薯掘り体験		地区	加茂市七谷
実施場所	加茂市二万年前旧石器公園		住所	新潟県加茂市上大谷370-8
担当者			E-mail	
TEL			FAX	
受入可能期間	11月		プログラム概要	
受入可能時間			その場で七谷産コシヒカリに自然薯を	
体験時間	90分		かけたとろろかけご飯と、七谷産の	
最小催行人員	5組		なめこの味噌汁を食べることができる	
最大催行人員	12組			
受付期限	1週間前		高級食材、自然薯栽培を中山間地活性化	
体験料金	大人	小人	事業としての背景を拜聴する。	
2名～4名	3,500	2,000	プログラム流れ(スケジュール)	
5名～9名	3,500	2,000	①自然薯についての説明	
10名以上	3,500	2,000	②自然薯の収穫	
料金備考	料金に含まれるもの 自然薯収穫体験 七谷米、自然薯、なめこ汁		③試食	
交通	車	加茂駅より19分	④	
	公共交通	市民バス(中大谷)	⑤	
駐車場	普通車	18台	⑥	
	バス	可	注意事項	
トイレ	あり		自然薯の効能効果の説明	
売店	なし		自然薯の料理体験があればよい	
自販機	なし		服装・準備物・その他	
食事			軍手、長靴、タオル、 自然薯を持ち帰るための袋	
特記事項	自然薯の試食あり		予約先	七谷の里
			TEL	
			FAX	
			E-mail	
			対応時間	

歴史

2021年加茂市七谷地区の新名物にしようと、地元住民が参加農家を組織しました。
加茂市七谷大谷の河岸段丘にある水はけのよい農地のため
自然薯栽培に取り組みはじめました。

組織

1年の自然薯栽培に取り組み作業をおこなう農家の起業団体が誕生しました。
1年間の主な作業
4月、自然薯畑起こし、5月、畑の畝作り、6月、種まき、7～9月、水分管理、草刈り
10月～11月、収穫

経営

自然薯掘り体験にはとろろかけご飯となめこの味噌汁を含めた参加料金となります。
加茂市七谷大谷にある2万年前遺蹟公園の隣接地にある見晴らしの良い畑です。
晴天時と雨天時の両方プログラムがあると天候の心配がいらぬことがわかりました。
・晴天時の体験例、自然薯説明～収穫～2万年前公園での自然薯料理、鶴巻邸見学
・雨天時の体験例、自然薯説明～収穫～2万年前公園の東屋の自然薯料理、鶴巻邸見学
今後は、大学、食品研究所などの協力を得て、自然薯、薬師マイタケ、なめこなど活用した
6次産業化と観光体験と交流事業をめざしています。

写真またはMap

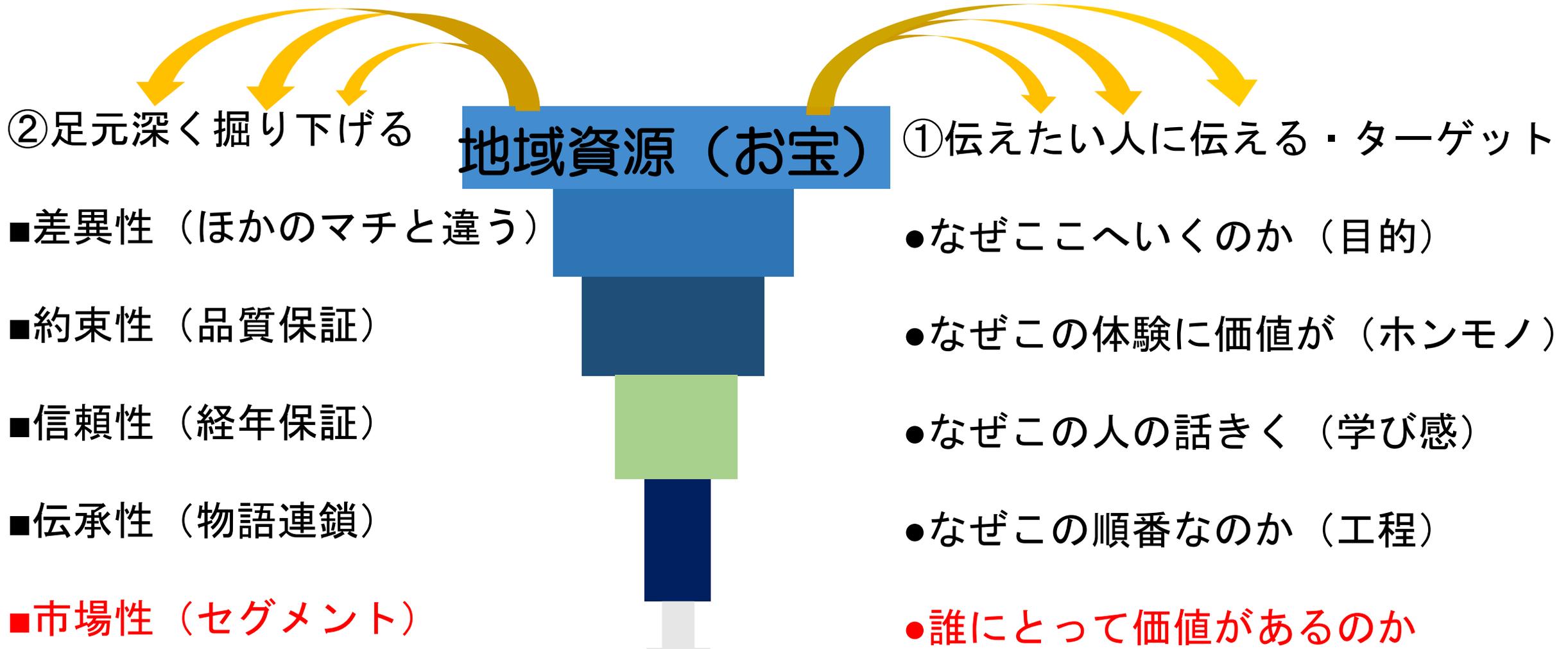


チェック ※新潟経営大学研究生による体験価値の評価に基づく

4P	4C	4E	
Product	Customer Value	88	Education
Price	Cost	78	Entertainment
Place	Convenience	58	Escape
Promotion	Communication	84	Esthetic

④宝興し

4. 体験の感動が誰のためにあるのか（地域ブランド）



体験型観光取材先10件→取材フォーム記述→取材者から記録収集→各班にて取材結果まとめ分析・採点
Entertainment・Education・Escape・Estehtic・Exchange

加茂観光資源と人材グループの循環

炭焼き体験グループ



加茂食文化グループ



七谷鉄道遺産グループ



顧客

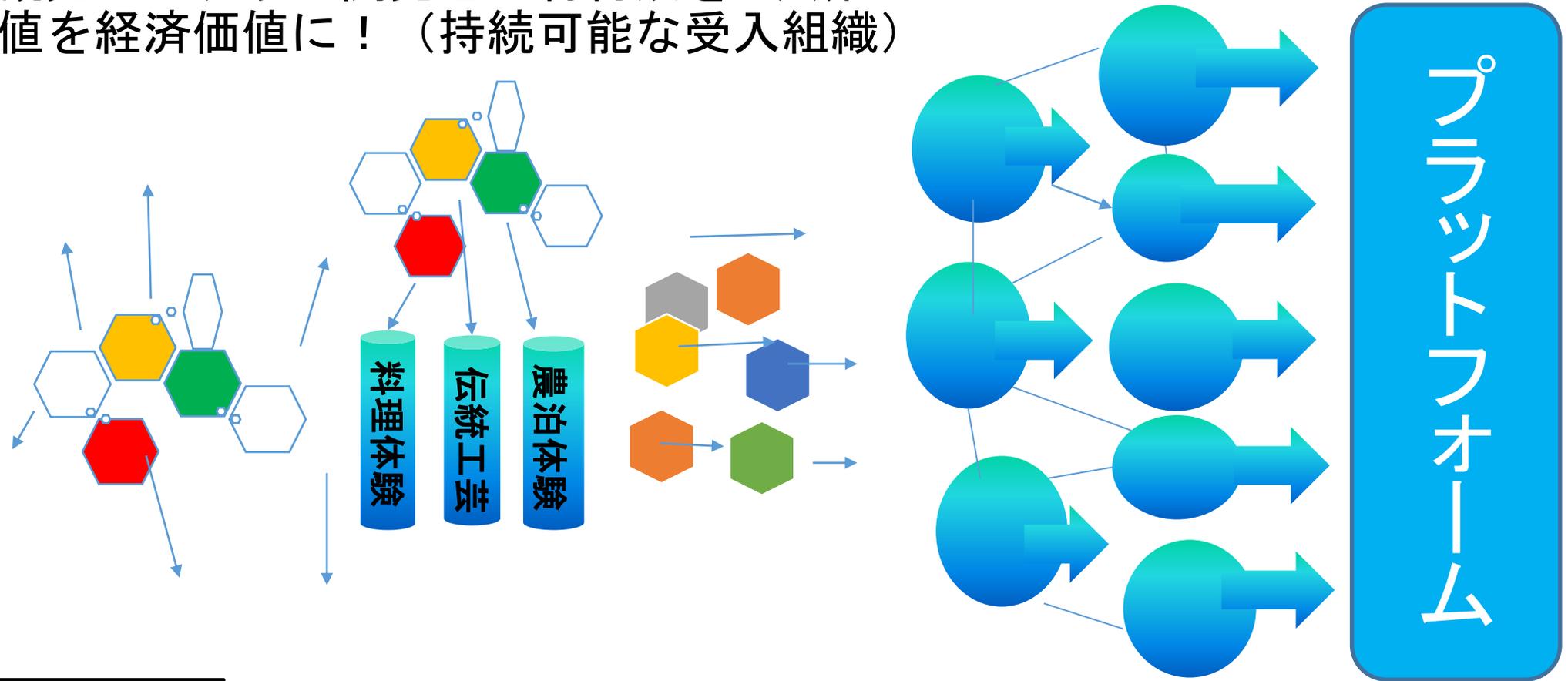
プラット
フォーム

課題

プラットフォームの担い手
発信・手配・在庫管理・精算

4. 考察とまとめ: 持続可能な稼げる観光プラットフォーム

体験型観光プログラム開発と人材育成を1ヶ所で！
体験価値を経済価値に！（持続可能な受入組織）



異なる目的をもったグループ

テーマの設定発表の機会

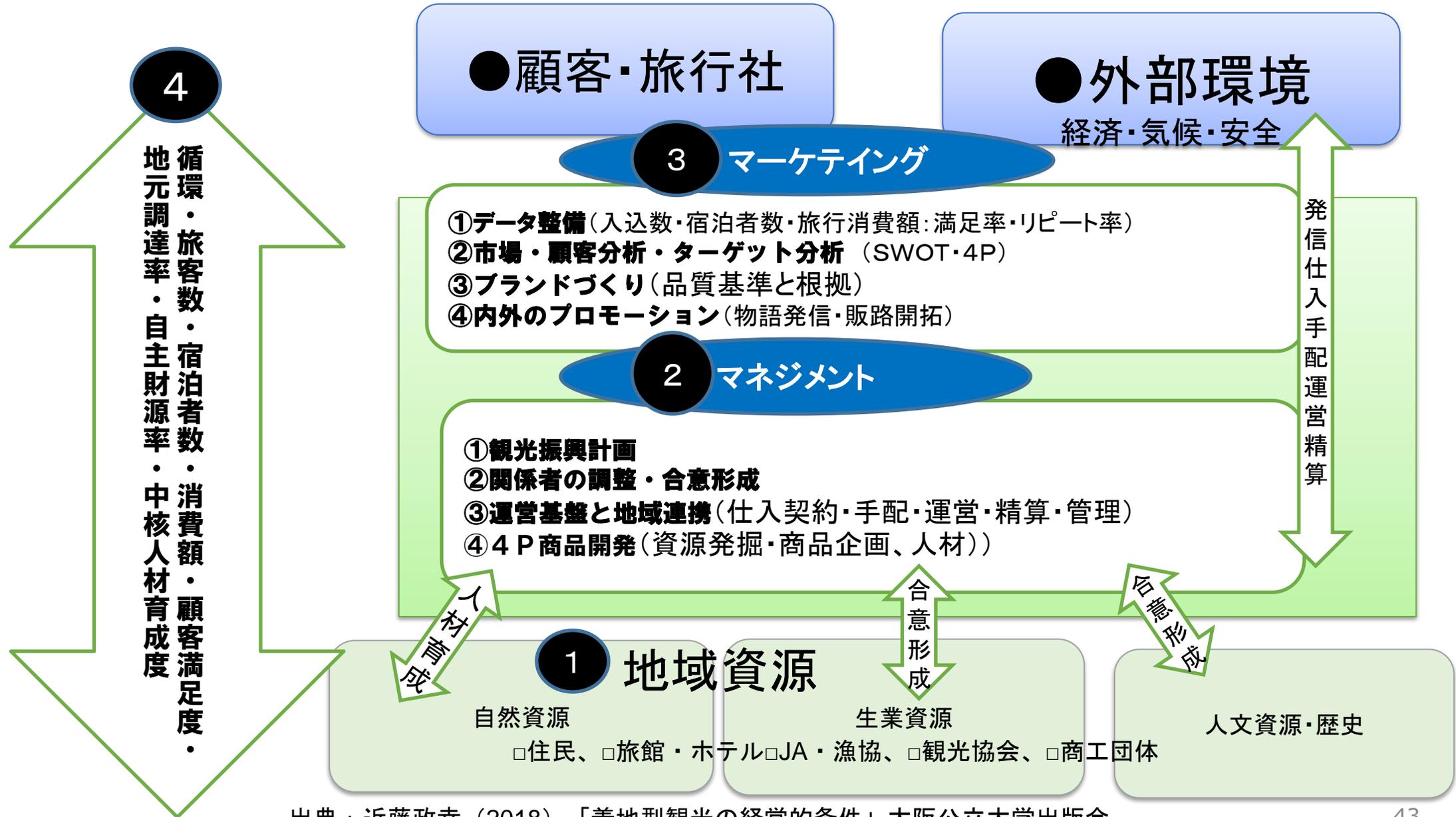
動機付け・ネットワーク連携+経営+起業

拡大・継続・事業化

参照：メディアマーケット

結論

観光まちづくり組織の地域経営



まとめ

持続可能な稼げる観光プラットフォームを作るには

住んで良し、訪れて良し、稼げる体験型観光が必要である



ご清聴ありがとうございました

